

固有の文化を共有した仲間

火の国の友は、同級生の呼びかけに「さんや、くん」の敬称を付けます。敬称無しの呼び捨ては、御法度です。この文化を共有した世代と地域の中で育った者にとって、その思い出が消えていくことはありませぬ。普段は眠っているその記憶を呼び起こすには、トリガが必要で、これは、故郷の訛りや風景であったり、当時の生活を感じる食事や町の匂いであったり、当時の生活を感じること、記憶を呼び起こすこと、私たちが過去の世界へタイムスリップさせてくれます。過去と現実が一つになる瞬間です。固有の文化を共有した仲間には、時を越えて働く引力があるように思えます。

(七室 杉村明彦)

熊高卒業五〇周年記念同窓会

令和五年三月二十九日(水)午後六時開会

場所 熊本市校町

SAKURAMACHI HILLS 7F  
LAZOR GARDEN KUMAMOTO  
(ラゾールガーデン熊本)

(詳細は4面に)

高2の思い出!

『セブンティーン』あの頃の僕らにとってその言葉は、「青春」真っ只中を象徴したような言葉だった。一九六八年。確か二年四室だったと思う。山室や、岩崎君、魚住、金沢さんといった個人的でアクのある連中(いい意味で)と同じクラスで、とても忘れがたい一年間、クラスであった。



毎年恒例の野球の全校応援の為、応援団への参加。プールサイドでの全校練習。昼休みと共にグラウンドへ駆け出し、ソフトボールに興じたこと。それが顧問の先生の目に留まり、非公式ながら学校代表として大会に出場したこと。バイク通学のお陰で、生徒会の体育会準備手伝いに市内の学校回りをしたこと。松本隆や西君、金沢さん、岩崎さん、仁田坂本素子ちゃん達とナポレオンをして遊び回ったこと。新生の秋月南花先生宅を訪れたこと。「去るものは日々に疎くして梅檀の花咲く春になりけるかも」(先生詠)

移設開場途上の水辺動物園に合ハイ宜しく出かけた

こと。

後日、深川春美ちゃんが思い出させてくれた。坊中から草千里までハイキングに出かけたこと。隆、西君(通称、西)、溝口淳へ、中島泉ちゃん達と金沢さん宅へ遊びに行ったこと。淳へと甲斐君とは県立図書館へもよく遊びに行った。第一の体育祭にフオークダンスを踊りに行ったこと。女の子の手を握ることにドキドキした、鮮明な、プラトニックな思い出。隆、泉ちゃん、西沢に金沢さんも加えて最初の最後のコンサートをやった。学内の文化祭では悲惨な戦争をクラス全体で唄った。二年の解散前に造成中のグリーンランドにクラス全員で出かけたこと。

思えば安田講堂陥落前後だったか? たった一年の間に、忘れ得ぬ思い出を残してくれたお前たち、貴女たち、会いたくて、又遊びたくて、でもなかなか叶わず、感謝の気持ちだけでも伝えたい。(二室 田上 講見)

平和を享受してきた我々世代の務めとは

東京芸大受験に挫折した私の人生を、その彷徨から救ってくれたのは、当時の恩師のひと言でした。それは、「振幅のある人生を生きてよ」という言葉でした。真逆の警察社会に入り、厳しい訓練にも耐え目指したのは、国際捜査の世界でした。一九八〇年、英国と当時の西独警察での短期留学の機会に恵ま



その後、外務省(在外公館)への出向制度の熊本県第一号として採用され、イラン・イラク戦争(一九八〇〜一九八八年)当時の在イラク日本国大使館(バグダッド)に、二等書記官として三年間在勤する機会を得たのです。

約一七五〇人の在留邦人の安全確保が、主たる任務でありましたが、その後の私の人生に大きな影響を与えていることとなったのです。日本ではパブル景気に沸いている最中でしたが、空襲や七三発のスカッドドミサイル攻撃の中で、邦人の避難疎開や国外脱出を誘拐事件の対応など様々な危機管理に対応したのです。戦争の惨さを目の当たりにした3年間で、今思えば、妻の支えと若かさがあったからできたのかも知れません。

その希少な経験から、帰国後は、国際テロ対策や日本赤軍海外逃亡犯の捜査を長年、担当することになったのです。その国際指名手配犯の中に、私の恩師の子弟であった岡本武(熊高卒)や岡本公三が含まれていたのには、少なからず宿命のなものを感ずるものでした。期間中は、在ギリシャ日本大使館一等書記官など海外駐在が八年間、通算十六年にも及びました。その間には、イラク戦争時の邦人拉致事件の救出オペレーションや日本大使館員の襲撃殺害

事件の捜査、バリ島で邦人が巻き込まれた国際テロ事件の捜査、各国で開催されたオリンピックやサミットでのテロ対策、平成時代の天皇・皇后両陛下の各国御訪問時の警備警備等々で訪れた国は、六十カ国ほどになっていました。異常な緊張の連続だったことを昨日の日のように思い出します。



平成時代の天皇・皇后両陛下デンマーク御訪問時

二〇一八年に、テロ対策の現場から引退後、熊本県警に復帰し熊本東警察署長や生活安全部長、警備部長等を務め、東日本大震災等にも対応しました。あつという間に退官の年を迎えたのですが、浦島知事から、二期目の危機管理と国際戦略を政策参与(非常勤の特別職)として、サポートして貰いたいと要請されたのです。迷いなく、郷土熊本のために役に立てればと引き受け、五年間務めさせて戴きました。九州北部豪雨災害や熊本地震等の災害対応のほか、台湾高雄やインドネシア・バリ、香港、ベトナムとの国際交流拡大の基礎作りにも尽力させて戴きました。

また、国際テロに関する重大事案発生時には、テレビ等を通じて解説やコメントもさせて頂いています。併せて、民間の立場でも二つの会社を設立し、東南アジアと九州を結ぶ架け橋として「九州プロモーションセンター」をベトナムに設立するなど、官民連携の繋ぎとしての役割を果たしています。一方で、ボランティアとしてネット社会の闇から子ども達を守るべく、「子どもの命と権利を守る活動

推進協議会」の副会長を、創設以来十年間務めて参りました。

これら一連の私の生き様の根幹には、我々の同級生の山室信一君が、東京での江原会大同窓会の講演時に語った「落葉帰根」の言葉がありました。熊本から東京へ、東京から世界へ、また、世界から東京へ、東京から熊本へと根源に帰り、得られた経験・知識と人脈を肥やしとして、郷土熊本を拠点に、次の世代に引き継ぐことを、我が道標としたのです。今も続くコロナ禍の恐怖や狂気とは思えないロシアによるウクライナ侵略等々、予期せぬ出来事は世界は、ますます混沌の度合いを深め暗澹たるものがあります。幸運にも平和な時代に生きることができた私たちが、如何に恵まれていたかを自覚し、次世代に繋ぐべきものは何かを、考えていかねばならないのではないのでしょうか。(二室 吉村 郁也)

私の望んだ人生がやっと始まった!

とても昔の別世界に投稿している気分です。外資系会社で半導体回路設計、その成り行き上使った英語で翻訳業を経て、5年くらい前からアットに自覚しました。国東半島の古民家を買ひ、2年かけて自力でリフォームして、ゲストハウス、アトリエ(陶芸、工芸)、催し場(ギヤラリー、演奏会など)を経営開始しました。

自分の好きなものを作り、好きなことを書き、描き、定期的なテニスをして、70歳を過ぎた今、生まれて初めて自由を感じています。私の望んだ人生がやっと始まったのだと張り切っています。(七室 小林道郎)

家族や多くの人に支えられた四十年!

弁護士になってから今年で四十年、弁護士会の表彰もいただきました。九州大学の農学部を卒業したものに人に関する仕事



がしたいと方向転換し、司法試験を何度も挑戦してやっと弁護士になったのです。祖母は喜ぶどころか心配してくれました。わざわざ人の苦勞を引き受けるなんて。確かに、重たいものを引き受けつづけるようになることもありました。しかし、事件に育てられ、多くの人々に出会い、家族に支えられ何とかが四十年の道のりを私らしく歩んでこられました。本当にご縁に感謝です。むしろ、これからは人生の正念場です。口から上さえず大丈夫であれば、学ぶことと仕事は続くつもりです。一期一会、会えるときには会っておきましょう。(六室 田尻 和子)